

小規模学術誌の電子出版技術に関する研究

A Study in Electronic Publishing of Small-Scale Academic Journals

プロジェクト代表者：太刀川達也（埼玉大学大学院理工学研究科・講師）

Tatsuya Tachikawa (Graduate School of Science and Engineering, Saitama University)

1. はじめに

学際的な研究の進展とともに、これを支える学会の創設が盛んである。埼玉大学でも、元理学部長の下沢隆名誉教授が中心となって、「化学ソフトウェア学会」の創設に中心的役割を果たして来た。学会の重要な使命のひとつに、学会誌の発行がある。しかし、小規模な学会にとっては、論文誌の発行を継続し、しかも、そのサーキュレーションを高めることは、財政上、技術上、種々の困難を伴う。本プロジェクトの目的は、論文誌の発行をスムーズに行い、また、サーキュレーションを高めるため、日本コンピュータ化学会で刊行されている Journal of Computer Chemistry, Japan (JCCJ)誌の J-STAGE を利用した投稿・受付・審査・査読システムの導入による電子出版化を検討することである。J-STAGE とは、科学技術振興機構 (JST)が運営する学協会のための電子ジャーナル共同利用センターである。

2. 基本フォーム作成までの検討内容

投稿・審査・査読システムの基本フォームを作成するため、投稿から審査までの流れを、今までの郵送を利用した作業形態を踏襲するかたちで検討した。すなわち、事務局・編集委員長・編集委員・査読者をおき、それらと投稿者との間で web を通して原稿や査読意見のやりとりを行うというものである。その際、重要な検討事項として、投稿者がアップロードするファイル形式がある。ファイル形式はパソコン環境の違いによる原稿の違いの少ない pdf 形式が望まれるが、我々の学会誌では、最終的な段組などの校正作業を編集部内で行うため、word 形式でのアップロードを可能とした。また、我々の学会誌では、英文校正も別途依頼する必要がある。これらの点を踏まえて作成された初期のシステムとそのフローチャートを検討し、基本フォームに対する要望事項を提案した。主な提案内容は、以下の通りである。

- ・初期投稿の受け付ける論文のファイル形式を、pdf 形式にする。
- ・投稿者の会員番号の記入を可能にする。会員がいない場合には、入会希望の意思表示ができるようにする。
- ・"投稿者情報の欄に、会員番号のチェックボックス（必須）と入力項目を追加する。
- ・原稿種別・希望審査分野の内容をメンテナンスする。
- ・査読票を日本コンピュータ化学会で使用している査読票にカスタマイズする。
- ・査読者の辞退理由欄に「推薦査読者がいれば記入して下さい。」とコメント追加する。
- ・編集委員が査読者を登録できるようにする。
- ・採択原稿提出時に pdf 形式以外のファイルをアップロードできるようにする。

3. 基本フォームに関する検討内容

作成された投稿システムの基本フォームを提示してもらい、投稿・審査の流れについて検討を行い、これから実際に試行を行っていくことに際し、いくつかの問題点や利便性のための提案を確認した。

- ・投稿者の登録画面にある抄録の項目は不要と考え、削除する。
- ・著作権委譲のチェックを必須に変更する。
- ・論文ファイルのアップロード中は、「次へ」ボタンを入力無効な状態になるようにする。
- ・アップロードした英文 PDF ファイルが、英語環境で正しく表示されるか、表示イメージを画像で返す。
- ・投稿者の事務局へのコメントに、査読者の推薦・非推薦ができる旨を表示する。
- ・査読票から査読者の意見を word 形式のファイルでアップロードできるようにする。
- ・アップロードファイルのプロパティに査読者の情報が残らないよう注意を促すコメントを追加する。
- ・査読者の著者へのコメントを必須にする。
- ・総合評価を「掲載化」「修正小」「修正大」「却下」に変更する。
- ・英文校閲後の原稿提出にも流用できるように、メールテンプレートを追加する。
- ・手続き中の画面で、最終画面での操作が完了するまでは、手続き完了となりませんのでご注意ください。とのコメントを追加する。
- ・手続き中の画面で、処理中の原稿に関する情報や受付番号を表示するようにする。
- ・投稿規程のリンクを投稿入力各ページに追加する。

3番、4番目の提案のような J-STAGE による対応が不可能な提案があり、今後の改善が望まれる。また、このシステムでは和文・英文でそれぞれ 80 通のメールの定型文が用意されている。それぞれについて、送信先、送信元、文面等を検討しなければならない。必ず使用する文章と、使用頻度が低い文章があり、その修正も容易なものではないが、修正を加えていく必要性が示された。

まとめ

J-STAGE の投稿・受付/審査・査読システムを利用することにより、国際競争力が高められるとともに、投稿者層の拡大が期待できる。また、投稿されてから掲載稿が完成するまでの期間が、約一ヶ月短縮でき、速報性が高まる。さらに、郵送の経費が節約できる。また、上記の検討事項は、他の電子投稿を考えている学会にも役立つ情報であると考えられる。

今後、運用の開始までに、発信・受領文書の整理・定型化、論文誌に関する規則・規程の変更、本紙に掲載された著作物の著者による個人的な公開に関する取り扱いに関する検討を行っていく予定である。